

樽子山を訪ねて

第15期 吉田 信一

この春の帰省時に、母校の樽子山を訪ねた。60年前は細かったプラタナス(鈴懸)が直径40センチもの大木になっている。昔と変わらないグラウンドの桜の下をしばし逍遥し、往時をしのんだ。

「樽子山会」での話題の一つを紹介する。人生へのスタート点である高校時代に、より広くより確かな世の中の情報があれば、どんなに助かったか。進学や就職に、より選択の幅ができたのは確か。現在は情報化時代ながら情報の質と量は全て同じではなく、特に地方にはこの傾向が強い。この為、東京の某高校で開かれている「ようこそ先輩、OBセミナー」がN紙で採り上げられた。教養講座の位置付けで、各界、各分野で活躍する、或いは活躍した卒業生を講師とする教室ゼミ。対象は聴講希望生徒、質疑応答込みの2時間、講師料なし、等々。ふるさと納税が論議になっている昨今、母校への感謝、関心、願いを抱いている能高卒業生は非常に多く、「樽子山会」もその例外ではない。

能代に滞在中、五能線と八郎潟方面へのドライブに同乗し、沿線の人的風景が都市型へと変貌しつつあることに驚いた。十五里行軍の昔の田舎の風景はどこにも存在していない。清潔で機能的な地元物産直売ハウスが点在し、この中で土地の農村婦人連が嬉々としてサービス満点の接客販売をしている。世界遺産白神山地と中央を結ぶルートの中でも、くるまの比重が圧倒的に強くなった。この結果、旧能代町を飛び越えての、沿線エリアと中央や他都市との人的物的交流が増え、精神的にも感覚的にも都市化現代型現象が起きつつある。

そば、山菜、佃煮などしこたま買い、クール宅急便で自宅へ送ってもらった。

映画への熱い
思いが結んだ縁

第61期 佐々木亜希子

子供の頃からの夢だった映画を作る仕事に就き、プロデューサーになって数年がたちました。今秋11月3日全国東映系にて公開の映画「オリオン座からの招待状」(原作:浅田次郎 出演:宮沢りえ・加瀬亮・樋口可南子・原田芳雄)はそんな私にとっ

て、運命というか感慨深い作品となりました。

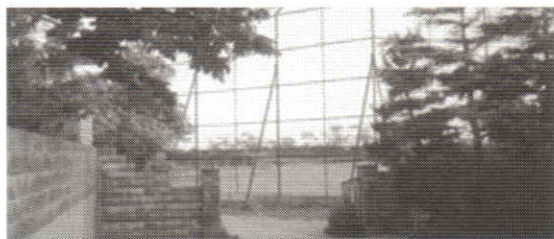
まず、大先輩である能高同窓生の吉田順さん(53期)にお会いした事。さらに、この映画は配給・宣伝を吉田さんがいらっしゃる東映という老舗の映画会社にやっていただく事で、秋田も含めた全国で公開されるという事です。

ちなみに、能高の同窓生に仕事を通じてお会いしたのも初めてです。郷里が同じとか、ましてや高校が同じというのは、なぜか親近感がわくといえますか、仕事にも気合いが入るといえますか、良い意味で緊張感が高まるものです。卒業したての若い頃などは、なかなか故郷を振りかえる気持ちも薄かったのですが、年齢を重ねるにつれ、ふるさとへの思いや愛情は強くなっています。故郷の事が良いニュースで語られたりするだけで、うれしくなります。

今までプロデュースした主な映画作品は、いずれも規模が小さなものでした。「イン・ザ・プール」(出演:松尾スズキ・オダギリジョー・田辺誠一)、「亀は意外と速く泳ぐ」(出演:上野樹里・蒼井優・要潤)、「天国までの百マイル」(出演:時任三郎・八千草薫・大竹しのぶ)などは、秋田で公開されなかったものもあり、いずれも、すぐビデオになるというものばかりでした。映画の作り手からすると、ぜひ映画館で、大きなスクリーンで作品を観てほしいと思います。

本作品は老舗の映画館を守り続けた夫婦の純愛を描いた作品です。優しい奇蹟が作品の随所にちりばめられています。私自身そうなのですが、映画によって救われた事が何度もあります、何かにくじけそうになった時、元気を出させてくれた映画があります。自分でもそんな作品を作っていきたいと思っています。

高校時代は劇場にはなかなか行けず、学校帰りに、よくレンタル店に寄り道し、外国映画などをビデオで観ていました。現在、能代にも映画館があると思いますが、学生のうちから、もっと映画を気軽に観る環境があればいいのになと思います。現在の能代高校には映画研究会などあるのかしら?もしあるならば、後輩達と映画やドラマについて語りあってみたいものです。



旧樽子山校舎裏門 提供:第45期 袴田邦夫氏

mixi もいいけど、ブログもねっ!

名古屋のチーチさん

第 53 期 梶原 禎子

第 29 期 太田 勝治

使用頻度に差はあっても、炊飯器や冷蔵庫同様に家電感覚で、一家に一台 PC (Personal Computer) があるのは当たり前、そんな時代になりました。

それどころか、日常生活において何よりも必要不可欠なアイテムとなっている人も少なくないはず。だって外出先でも、携帯電話からインターネットにアクセスすれば、株式市場もチェックできるし、オークションで落札だって出来ちゃいます。

功罪はさておき、兎にも角にも、気づけば随分とデジタルな世の中になってしまいました。

そんなご時世ですから……

「ブログやってる人、手～あげて!」

「はい!」

……けっこういますよね?

能代高等学校東京同窓会のブログもあるんですよ、見たことありますか???

それが下記 URL、「いつかの同窓会」です。

<http://blog.goo.ne.jp/itsuka-dousou/>

まだ立ち寄ったことのない方も気軽に覗いてみてください。

ここでは卒業生同士が、真面目なことから、どうでもいいこと(?)まで、色々なカテゴリー、様々な話題で、日々コミュニケーションをはかっています。たとえば……

ジャンケンの時なんて言ってた?

「シャイ・シャイ・キッ」だよね?

え?違う??

じゃ、なんて言ってた???

(「ジャンケン大募集」より)

……なーんて具合にね。

こういう軽めの話でも随分話の輪が広がりました。

能代高校の卒業生ならでは、同じ地元ならでは、の、一緒に盛り上がるトピックスって沢山あるはずですよ。ってことで、わたしもごく最近から顔を出してる口ですが、今度は是非ブログ上でお会いしましょう!!

ひゃあ、まんつっ!!!!

(編注:Blogは東京同窓会HPにリンクしています。)

能高東京同窓会のホームページの掲示板やブログの「いつかの同窓会」のおかげで、多くの同窓生が色々と不思議な出会いやご縁を体験しているようです。

実は私も興味のあるテーマが出たときは、時々書き込みをしましたが、いちばん印象に残っているのが「名古屋のチーチ」さんとの不思議なご縁です。

「名古屋のチーチさん」はブログでいつも「鹿渡中学校の生徒は優秀だった」と過分に褒めて下さるのです。「名古屋のチーチさん」のお姉さんが鹿渡中学校の先生だったようで、いつもログセのように、褒めていたそうです。

何回か書き込みを読んでいるうちに、「名古屋のチーチさん」は鹿渡町出身で私より2、3年先輩かな?と考えていました。でも、その後の書き込みでは二ツ井方面の出身みたいだし…、実際はよくわかりませんでした(第27期生でした。後で判明)。

私が中学生の頃、公私とも大変お世話になったのがK先生でした。教育熱心で、しつけには大変厳しい先生でしたが、庶民的でざっくばらんで、皆も大好きな先生でした。個人的にも家庭内の事、高校進学のアドバイスなどでも、本当に親身になってくれました。とくに我々同期生達はとてもかわいがってもらいました。K先生とは今でもおつき合っています。

そのK先生からこの春に電話がありました。名古屋にいるK先生の弟さんから「東京同窓会会長のかっちゃんという人とブログで何回かやりとりをしているんだけど、姉さんの教え子?」と聞かれたので、色々話していたらやっぱり私だったという事がわかり、K先生もびっくりして、すぐ電話をくれたのだそうです。

私もそのあとすぐに「名古屋のチーチさん」へ電話しました。名古屋のチーチさんはK先生の弟さんだったのです。いやあびっくりしました。名古屋のチーチさんも本当にびっくりしたようです。広いようで世間は本当に狭いものですね。

名古屋のチーチさんは、今年の総会には先約があり出席出来ないようで残念ですが、今度一度ぜひお会いしたいものです。

東京同窓会ホームページ:

<http://homepage2.nifty.com/shoryo-tokyo/>